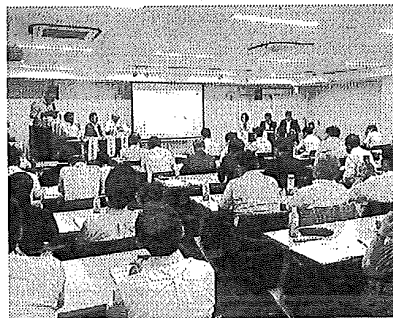


# 大分市でピッチイベント

インフラメンテ国民会議九州

## 橋梁点検テーマにマッチング

産学官民で構成するインフラメンテナンズ国民会議九州フォーラム（リーダー・日野伸一 大分工業高等専門学校校長）は7月30日、大分市で「ピッチイベント in おおいた2019」を開いた。写真。大分県内の地方自治体からニーズの多かった「橋梁点検の効率化技術」をテーマにマッチング活動を行い、民間企業4社がシーズ技術を紹介。パネルディスカッションでは市の担当者が技術職員や予算が不足していることを課題に挙げ、新技術の活用促進に向け国と地方自治体で情報共有することが提案された。民間活用の活用に対する期待の声も上がった。



有識者や建設コンサルタの維持管理を支える建設産業と、建設会社、九州地方業とその若い担い手の確保整備局、同局管内の県市町村の担当者ら約200人が参加。第1部では九州整備局の「わが国のインフラの老朽化が急速に進む一方、人口が減少し財政的な制約がますます厳しくなる中、いかにして安全・安心なインフラの維持管理に取り組むかが喫緊の課題だ。特に若い世代の人口流出が激しい地方自治体ではインフラ

の維持管理を支える建設産業とその若い担い手の確保率化技術」をテーマとした「ピッチイベント」では九州整備局の田口敏二道路保全企画官が道路橋点検の効率化技術の現状について講演。これに次いで国東市と日田市の担当者が技術的なニーズを紹介し、市職員による点検や新規配属職員でもスムーズに点検をできるシステムづくり、山間部の橋梁のUAV（無人航空機）

## 新技術の活用情報共有を

な技術、高速道路に架かる橋梁の安全で安価な点検・補修工法などが課題とした。

シーズ技術の紹介では特殊高所技術、日建コンサルタント、富士ビー・エス、CACHの4社の担当者や幹部がUAVなどを活用した橋梁点検、コンクリート内部の非破壊調査技術などを紹介した。

「インフラ施設の点検や管理運営に関わる課題」をテーマとしたパネルディスカッションでは、宇佐市や大分市の担当者が技術職員の少なさ、技術力の向上、予算の制約などを課題に挙げた。

新技術の活用については「実績がないと使いにくい」との意見があり、国土交通省で技術を検証し地方自治体と情報共有することが提案され、九州整備局は「各県の道路メンテナンズ会議で新技術の活用結果を共有できれば」とした。PPP・PFIや一括発注が効果的な維持管理につながるのではないかと意見が出たほか、県内に多い道路橋の石橋の維持管理が課題とする指摘もあった。